

**雲柱社創立 70 周年 (2008 年) の節目にあたって雲柱社職員全体の意識を盛り上げる**

来年 2008 年は雲柱社が設立されてからちょうど 70 周年目にあたります。雲柱社では、この機会にもう一度初心に帰るといふ意味で、創立者賀川豊彦について学ぶ機会を多く設けています。70 周年記念行事として、年史の発行や雲柱社の DVD 作成などの企画を進めています。職員にはさまざまな事業に対応できる柔軟性を持ちながらも、ぜひ雲柱社独自の精神性を継承していただきたいと願っています。



**2009 年献身 100 年記念事業**

2008 年の雲柱社創立 70 周年記念に続き、2009 年は賀川豊彦が貧しい人々を助けるためにスラムで生活を始めた年からちょうど 100 周年目にあたります。このために実行委員会を発足し、賀川豊彦関連の冊子の出版、展示会の開催、映画「死線を越えて」のリメイクなどの企画を進めています。



**関係団体との合同研修会の開催**

賀川豊彦が始めた事業を継承している団体は多数あります。なかでも関西一円で福祉施設や記念館などを運営している(社福)イエス団や、(財)本所賀川記念館とは密接な関係を築いており、隔年で合同研修会を開催して、賀川豊彦についての理解を深めると同時に、お互いの新しい事業について報告するなど、切磋琢磨しています。



**具体的な取り組みの例**



**現在の事業を継続・発展させる**

設立当初の理念に沿いながらも、現代のニーズに適した事業を展開していきます。現在の事業の質を落とすことなく継続すると共に、利用者の意見に耳を傾けながら発展させていきます。

**これからの雲柱社**

**キリスト精神に基づいて職員を訓練する**

雲柱社では職員を対象にキリスト精神に基づいた研修を行っています。この研修を通して、各職員が利用者一人一人を大切にすることとはどういうことかを学び、日々のサービスに活かしていきます。(※利用者への布教等は行っていません。)



**地域の人々が必要としているサービスを提供する**

雲柱社の施設は東京都を中心に各地に点在しています。それぞれの地域で何が必要とされているのか、問題点は何かを正面から受け止め、理解し、利用者の方々に適した環境を整えるべく努力していきます。また地域の人々と協力し、各地域の活性化の一翼を担っていきます。



**自治体や関係団体と協力して事業を進める**

生協、全労災など賀川豊彦に関係する諸団体や、多くの大学、図書館、博物館などのネットワークを築き、情報交換や協力事業を進めています。また政府や自治体と密に連絡を取りながら、法や制度に準拠し、地域の人々が安心して利用できる施設をつくっています。



**行政の行き届かないところに手を差し伸べる**

雲柱社では賀川豊彦が提唱した法人理念に基づき、子どもたちやお年寄り、障がい者をはじめ、各地域に住む人々の声に耳を傾け、それらの人々が本当に必要としている事項を正確に見極めて、いまだサービスが行き届いていない分野には、積極的に手を差し伸べていきます。



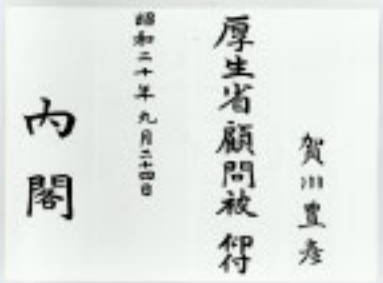
**雲柱社 豆知識**



賀川資料館の「光の庭」正面に見えるチャペル入り口に掲げられたこのエンブレム、実は賀川豊彦が自らデザインしたもので、松沢幼稚園の紋章として当時から使用されてきました。左上には十字架、左下には聖書(または知識)、右には松ぼっくりと松の実が描かれたこの木彫りの紋章には、子どもたちが神と自然を愛するようになるためには、幼い頃からの自然教育が大切だと論じてきた賀川豊彦の思いがこめられています。

**法や制度に活かされたもの**

賀川は普通選挙法、国民健康保険法などの制定に大きな影響を与えたほか、厚生省顧問、東京市社会局長嘱託などの公職にもついて、法や制度の整備に関わってきました。また、アメリカではニューディール政策にも協力するなど、国際的な活動にも貢献しました。



今、それらの法や制度の礎となった信念や本来の目的や意図が忘れられてきてはいないだろうか…。決められた事柄だけが一人歩きしてしまっていないだろうか……



**今、雲柱社が取り組んでいること**



今の社会に必要とされていることは何だろうか？ 子どもも、大人も、健常者も障がい者も誰もが自分らしく生きる社会を作るためにはどうすればよいのだろうか……

“人々がつながり支えあう社会はどうやってできるのだろうか…” (続き)



**こんな活動を行いました**

- 託児所の設置
- 伝道のための講演活動
- 消費組合・生活協同組合の普及促進
- 教会建設の支援
- 国際的なネットワークの構築
- 疾患を持った人々の介護

これらの活動のうち、福祉、児童教育、社会教育の事業を現在雲柱社が引継ぎ、各施設でそれぞれの地域や環境に即した活動を展開しています。

(中央上: 厚生省顧問就任の辞令、中央下: 初期の雲柱社施設長会議、右: 子どもたちを教える賀川)

**教育への取り組み**

子どもたちの成長に合わせてさまざまな体験をさせながら育ちを支援し、生きる力を育む活動を行っています。



**子どもたちの成長を支援する**

子どもたちの生育には、幼い頃の環境を整えることが大切だと訴えた賀川の意味を継ぎ、子どもたち一人一人が自立し、他者と共に生きていくためのコミュニケーション能力を身につけられるよう支援を行っています。



**社会的弱者を支援する**

子どもや障がい児・者ひとりひとりの個性を受けとめ、それぞれが自分らしく生きるための支援を行っています。



**社会教育事業への取り組み**

展示、講演、出版などの諸活動、そして賀川豊彦関連団体との連携を通じて賀川豊彦の思想と実践を広く伝える活動を行っています。



**地域の連帯・参加を助ける**

施設ごとにそれぞれの地域のニーズを見極め、延長保育、未就園児向けのクラスなど、さまざまな取り組みを行っています。



**相談の場・居場所を提供する**

雲柱社の各施設では、学校や家庭以外での子どもたちや親子の居場所を提供すると同時に、子育てなどについて相談できる部屋も設けています。

